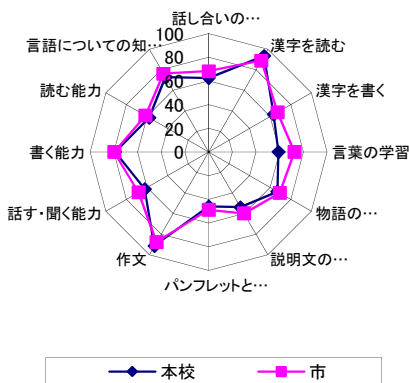


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	62.4	68.2
	漢字を読む	93.5	89.0
	漢字を書く	63.3	67.0
	言葉の学習	58.9	72.3
	物語の内容を読み取る	66.9	69.2
	説明文の内容を読み取る	53.8	59.8
	パンフレットと話し合いの内容を読み取る	46.0	48.9
	作文	91.5	87.8
観点別	話す・聞く能力	62.4	68.2
	書く能力	78.9	79.5
	読む能力	57.9	61.5
	言語についての知識・理解・技能	72.8	76.2



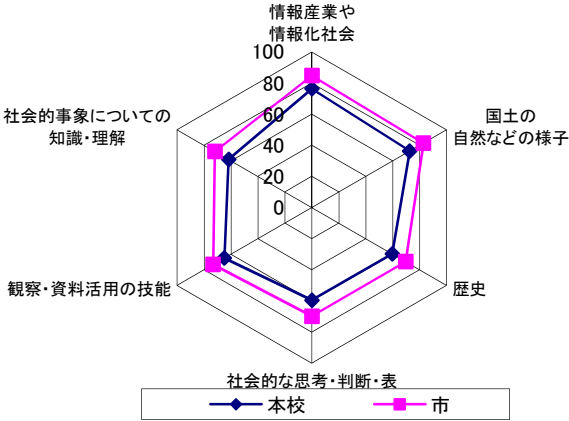
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取る設問や話し方の工夫を考えながら話の内容を聞き取る設問では、市の平均と同程度か、やや上回る結果を得られた。しかし、司会者の役割を理解して、適切な言葉づかいを問う設問では、市の平均を下回る結果となった。	毎日の学習の中で、相手の話を落ち着いて聞くということを繰り返し指導していきたい。特に話す時の声の大きさや話の組み立て方など相手に分かりやすく伝える工夫をする経験を通して学んでいけるような場を意図的に設定していきたい。
漢字	6学年になってから学習した漢字の読み書きでは、正答率が90%以上と市の平均を上回る結果となった。しかし、5年生で習った漢字の読み書きの正答率が50%前後と課題が残った。特に「往復」という漢字は書けない児童が多かった。	6年生の漢字については、毎日の宿題や朝の学習などで繰り返し指導してきた結果、定着を図ることができた。5年生の漢字についても指導してきたが読みはできていても書けないという状況を見ると指導が十分だったとはいえない。5年生の漢字についても6年生の新出漢字同様繰り返し指導していきたい。
言葉の学習	俳句の設問ではおおむね市の平均と同程度となった。敬語については、尊敬語・謙譲語の正しい使い方に課題が残った。	俳句については、百人一首をクラス全体で行うなどの活動を通して日本の伝統的な言語文化に触れる一助としたい。また敬語については、毎日の生活の中で時と場に応じた言葉づかいも含めて繰り返し指導していきたい。
物語の内容を読み取る	登場人物の心情を読み取る設問では、市の平均を上回る結果となった。ことはおおむね市の平均と同じとなった。しかし登場人物の様子や場面の情景を思い浮かべて登場人物の心情を読み取る設問では、市の平均と同程度か下回る結果となった。	とにかく読解力をつけていきたい。授業の中ではしっかり文章を読むことに重点を置き、その中で登場人物の相互関係や心情を考えるなど日々の授業を充実させていきたい。また、朝の読書のみならず、家庭での読書を奨励するなど物語文を読む機会を多く設定していきたい。
説明文の内容を読み取る	分掌の内容を的確に読み取る設問では、市の平均と同程度の結果となった。しかし、文章の構成を的確に押さえながら読み取る設問では、市の平均を下回る結果となった。	文章の中で筆者は何を言いたいのかなど内容は分かっているにもかかわらず文章の中でどのような役割をしているのか、どの段落同士がつながりあっているのかというところまで理解が及んでいなかった。説明文についても物語文と同様、日々の活動の中で読解力をつけていき、段落同士のつながりが理解できるようにしていきたい。
パンフレットと話し合いの内容を読み取る	資料と話し合いの内容を正しく読み取って考える設問では、市の平均を上回る結果となった。しかし、資料と話し合いの内容を正しく読み取り、適切に文を書き加える設問では、市の平均を下回る結果となった。	まずは、この設問のようなパンフレットのような資料に多く、触れる機会を国語のみならず設定し、そのパンフレットの良さに子どもたち自身が体験を通して気付くような場面を設定していきその一助としたい。また、ただ見るのではなくパンフレットを見る視点をこちらから提示することで子どもたちがそのよさに気付けるようにしていきたい。
作文	決められた条件の中での作文は、市の平均とほぼ同程度となり、中でも自分の考えを明確にして作文を書くことはほぼ100%の結果となった。	日々の学習の中で自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるようにまとめることを意識して指導してきた結果が成果として現れたようだ。今後とも自分の考えが相手に明確に伝わるようにするにはどのような書き方が適しているかを子どもたち自身が考えて作文できるような指導の工夫をしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	76.3	84.7
	国土の自然などの様子	72.6	82.7
	歴史	59.6	69.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.5	69.9
	観察・資料活用・技能	65.0	73.3
	社会的事象についての知識・理解	61.8	71.9



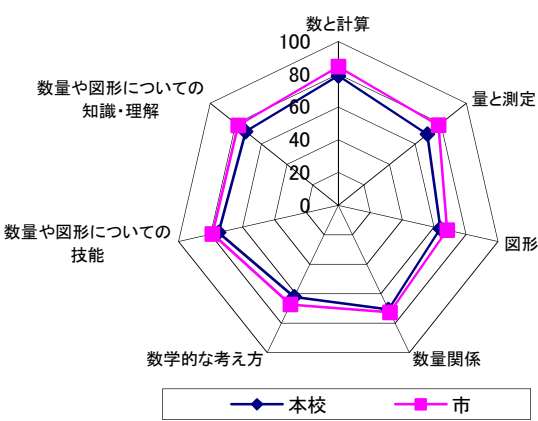
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	メディアの種類とその特色を問う設問、情報ネットワークについてコンビニエンスストアの例をもとに考える設問、ホームページを作成する際に注意すべきことを問う設問いずれも市の平均を下回る結果となった。	本問題は5年生での学習内容である。基本的な知識はおおむね身に付いているといえるが、その知識をもとに自分の考えをまとめるということが苦手な傾向にある。資料を見てそこから分かることを自分の考えを織り交ぜながらまとめていくような場を多く設定していきたい。
国土の自然などの様子	資料を読み取り、林業の現状を把握する設問、環境を守る取り組みについて判断する設問いずれも市の平均を下回る結果となった。	本単元も5年生の内容である。6年生の学習は主に歴史と政治・経済分野の内容のため5年生の内容に触れることが少なかった。このことから、6年生でも5年生での学習を想起させる内容については丁寧に復習するなど場の工夫をしていきたい。
歴史	縄文時代から明治時代までの内容を理解しているかを問う設問、その時代に活躍した人物と事象合わせて問う設問、資料から分かることを問う設問いずれも市の平均を下回る結果となった。	縄文時代から室町時代までの事象が時系列で理解できていない様子が見える。室町以降は比較的時系列に沿って事象を理解できているので、既習事項を復習したり、前の時代との比較をして考えるなど子どもたちが歴史の事象を時系列でとらえられるような指導の工夫をしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	79.0	84.6
	量と測定	69.6	78.3
	図形	63.9	68.2
	数量関係	70.6	72.6
観点別	数学的な考え方	62.1	67.3
	数量や図形についての技能	74.9	78.9
	数量や図形についての知識・理解	72.3	78.2



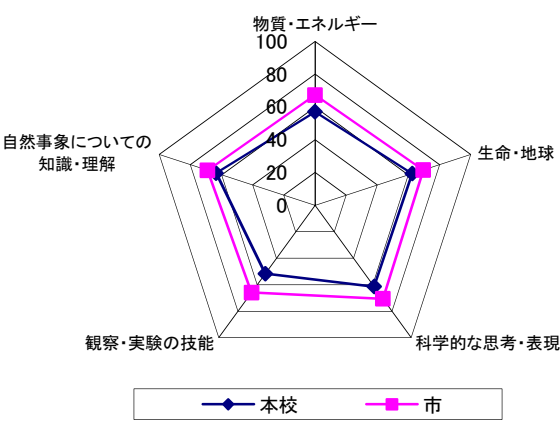
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	分数÷整数、分数×分数、分数÷分数の計算を行う設問では、市の平均を上回った。その他も分数×整数、分数・小数・整数の乗除混合算と決して難しくない設問だったが、市の平均を下回った。	まずは、正確な計算力の定着を図りたい。それにはまず、数字を丁寧に書くことである。子どもたちの解答を見ていると自分で書いた数字を勘違いしてそのまま計算している様子も見られた。日々の学習の中で繰り返し指導していきたい。また、計算の中での些細な間違いも減らしていきたい。
量と測定	速さをもとに一定時間の道のりを求める設問や速さの単位を理解し、時速を分速に直す設問では市の平均と同程度の結果となった。しかし、図形の面積や体積を求める設問では市の平均から10ポイント以上下がってしまう結果となった。	速さについては日常生活において自転車や友人宅まで出かけたり、家の車で出かけるなど子どもたちの実体験を通して速さに対する認識ができていく様子が見える。その一方で、面積や体積といった図形に関しては日常生活の中では実体験をもとに考える機会は少ない。そこで、面積や体積についても子どもたちが実生活で経験しているような教材を取り上げ体験を通して学んでいけるような指導の工夫をしていきたい。
図形	市の平均も決して高いとは言えないが、線対称な図形の対応する点を求める設問や円を使った正多角形の書き方を問う設問では市の平均を上回った。しかし、点対称な図形の対応する点を求める設問、円の半径から円周を求める設問、三角形の展開図を求める設問では市の平均を下回った。	授業の中で、図形に関する問題により多く触れられるよう授業の中身を精選していきたい。また、理解している内容を式に表すとどうなのかということがうまく結びついていない状況も見られるので、授業の中で、式化することはとても大切であることを日々の授業の中で指導していきたい。
数量関係	反比例の表を読み取り、当てはまる数字を答える設問や帯グラフから割合を求める設問では市の平均を上回った。しかし、等しい比を選ぶ設問、2つの数量を式化する設問、xとyを使って比例の関係を式化する設問、帯グラフから割合を読み取って比較量を求める設問では市の平均を下回った。	単位量あたりの大きさの分野で課題が残った。そこで、授業の中で事象を図に表す活動を取り入れ、文章化されている数量を視覚的な数量で表すことを通して正確に事象をとらえる一助としたい。さらに2つの数量の関係を的確にとらえられるようにしていけば、求めているものが比較量なのか基準量なのかということも自信を持って判断できるようになると考える。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	57.1	67.3
	生命・地球	62.4	69.5
観点別	科学的な思考・表現	61.4	70.6
	観察・実験の技能	51.6	65.9
	自然事象についての知識・理解	63.4	69.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	質量保存の設問、電磁石の設問、水溶液の性質を求める設問では、市の平均を上回った。しかし、ふりこのきまり、もののとけ方、ものの燃え方と空気、水溶液のはたらきの設問では、市の平均を下回った。特にふりこの設問は市の平均を20ポイント下回った。	5年生で扱った内容に課題が残った。その時は実験などを通して理解できた様子でも実際には理解できていなかったことがうかがえた。このことから実験後のふり返しをしっかりと行い、実験の結果をもとに自分の考えをまとめるような活動を授業の中で定着させていきたい。
生命・地球	人の誕生の設問では、全ての設問で市の平均を上回った。しかし、植物や動物のからだのはたらき、太陽と月の形、生き物のくらしと環境に関する設問では、市の平均を下回った。	授業の内容は知識として比較的定着している様子が見えるが、その知識を生かして考えを深めることが苦手な子どもたちが多いようである。また、動植物・太陽や月は子どもたちの日常と密接に関係しているにもかかわらず獲得ポイントが少ない。今後は日常での事象をうまく取り入れた実験や観察のさらなる精選、工夫を行っていきたい。